



消化器癌における治療抵抗性克服を 目指した新規免疫療法

庄 雅之

Masayuki Sho

消化器・総合外科学／教授

臨床

■キーワード 癌治療、免疫療法、抗体治療

シーズ概要

最近の癌治療の進歩により、癌患者の予後は一般に改善しつつある。しかし一方、膵癌、食道癌などをはじめ、進行・再発癌に対しては、既存治療ではしばしば治療抵抗性を示し、患者予後は依然不良である。当教室では、長年にわたり、PD-1 に代表される腫瘍の免疫回避機構や獲得免疫の関与について研究を続けてきた。研究の過程において、CD200、HVEM などが治療抵抗性に関わる重要な分子であることを見出し、それらの臨床的意義について数多く報告してきた。今後、さらに臨床応用可能な新たな抗体、小分子化合物を創成し、新たな癌治療法の開発を目指す。従来型とは異なる新規治療法の開発は、難治癌において新たな道を拓く可能性が期待できる。

研究成果の応用可能性

新規抗体および小分子化合物の創成による新たな癌治療法の開発

Appeal Point

アピールポイント

特に難治癌に対する既存治療法の限界を克服し、癌患者の予後向上を目指す。

関連文献／特許

1. *Pediatr Surg Int.* 2020;36:137-143.
2. *Oncol Lett.* 2020;20:2919-2927.
3. *Ann Surg Oncol.* 2019;26:3982-3989
4. *J Exp Clin Cancer Res.* 2015;34:30.
5. *Anticancer Res.* 2015;35(4):2287-97.
6. *Anticancer Res.* 2015;35(3):1361-7.
7. *Eur J Cancer.* 2015;51(2):157-65.
8. *Br J Cancer.* 2014;110(4):1027-33.
9. *Cancer.* 2014;120(6):808-17.
10. *Clin Exp Immunol.* 2013;172(3):500-6.
11. *Br J Cancer.* 2009;101(10):1709-16.
12. *Clin Cancer Res.* 2009;15(3):971-9.
13. *Clin Cancer Res* 2007;13(7):2151-7.
14. *Clin Cancer Res.* 2005;11(8):2947-53.